

報告2
あり方
検討部会

先進地(鶴)視察研修報告

(報告者) あり方検討部会副会長 玉熊隆昭

現在、市町連の課題としてと
らえている「関係団体への役員
派遣」「単位町内会・自治会加
入率の向上策」「行政と町内会・
自治会の関わり」などへの取り
組みとして、6月21日に先進地
である「登別市連合町内会」と
「白老町町内会連合会」に出向
き研修しました。

報告1
キーワードは
「協働」「自主的活動」

登別市では、本市とは異なり、
連合会が専任の事務局長を雇用
し事業を展開しています。

組織構成は「総務部会」「事
業部会」「生活安全部会」「環
境部会」の4部会。この体制も
と、市の財政難を契機として、
それまで市が行ってきた市民
サービスのうち、連合会が出来る
サービスは積極的に引き受け
るなど、市の下請け機能ではな



この日の研修には「あり方検討部会」から7人のメンバー
が参加。登別市と白老町の取り組みに関する説明に、熱
心に耳を傾けていた。

く、協働のまちづくりに向けて、
市と対等な立場で活動を展開し
ている姿勢に共感を覚えました。
白老町では、町連事務局を行
政内に設置していた時期もあり
ましたが、今は独立させ、行政
と一線を引きつつ、協働のまち
づくりを進めています。現在の
事務局は、「町民活動センター」
に置き、スタッフを雇用して活

動していま
す。

主な事業
は町から受
託した広報
業務を、住
民目線で取
材・編集し
配布も町連
活動の一環
として行っています。

「行政と協働のまちづくりを
展開すること」を目指して「自
ら出来る範囲で活動すること」
これが登別市、白老町に共通し
た考え方でした。

報告
特集
課題解決の一助に
ありある研修を

この度の視察では、両町内会
連合会の協力のもと、活発な
質疑や情報交換などもあり、実
りのある研修となりました。
町連のこうした取り組みなど
も参考にしながら、恵庭市町内
会連合会が抱える課題解決に向
けて、あり方検討部会において
検討してまいります。

市町連活動記録

(2012.2.16 ~ 2012.8.31)

- 2.16 町内会連合会総会・表彰式開催
- 4.20 市理事者と町内会長等との懇談会
- 5.29 全道町内会連合会活動研究大会(札幌市)
- 5.30 全道町内会連合会総会(札幌市)
- 6.6 町内会長等親睦交流会開催
- 6.21 あり方検討部会先進地視察(白老町、登別市)
- 6.28 自治活動視察研修(平取町)~29日
- 7.3 町内会活動実践者研修会(札幌市)
- 7.26 市理事者と町内会長等との懇談会

その他の活動
四役会(7回)、役員会(3回)、事業部会(1回)、
広報部会(4回)、あり方検討部会(1回)

通学合宿は
タテ社会を変える
カギになります

柏地区の通学合宿は今回で4年目。毎年ば
らつきはありますが約28人位参加がありま
す。それぞれの家庭環境で育った子供たちが
学年のちがう子供たちと5泊6日寝起きを共
にし、個性をぶつけ合うのだから、見守る私
たちも大変です。印象に残っているのは大安
寺での坐禅。足がしびれたり、指導僧のバ
シッと叩くキョウサクにもなれ、この次もや
りたいという子供もいるほど。これからの目
標は「安全は自分で守る」という精神を植え
付け、災害に強い子供の育成ができればいい
など考えています。



野原 聡さん
大町町内会長

編集後記

◆町内会がなければ、暗くて寂しい地域
となり、少しの知恵と浄財を持ち寄れば、
明るく住み良い町内会だ!! 野原
◆今年は力強い「つ」氏、林氏を委員に
迎えた。お二人は編集の専門的知識をも
ちことも頼りになる存在です。編
◆号からタイトル変更と内容の充実
を目指し検討を重ねた。原稿執筆など
の協力を得ていよいよ発刊。 (三)
◆記事に合う動きのある写真がほし
いとの注文。安請け合いしたが難しい。 (一)
◆出来映えが楽しみです!! (一)
◆今回のモデルケース、市の生活環
境部の皆さんに手伝っていただきやっ
と成就。ありがとうございました。 (林)

募集!
紙面で紹介したい「ユニ
クな活動をしている人
」がける人の情報をお
寄せください。

発行
恵庭市町内会連合会
広報部会
事務局
恵庭市役所
市民活動推進課内
(☎ 33-3131)

RELAY INTERVIEW

リレーインタビュー



自分が知った情報は皆に発信して共有したいですね

水野みどりさん
末広町内会 会報編集長

事務職と手話通訳の指導者。いつでも、「人の話をよく聞く」傾聴係、お年寄りから子供まで、誰からも愛され、頼りになる人。末広町内会会報を毎月発行、平成22年から末広町内会広報調査部長。出身は北海道室蘭市

読書。パソコンによるフェースブックの発信も怠らない。「水野さんはマグロだね。泳ぎが止まったら死んでしまうから」と、友達から言われると云う。人の話をよく聞き、いつも自己研鑽をしている人である。

水野さんの会報作りはさらに家庭から学校に進む。「あの頃は、たくさんのお母さん方と知り合いになりましたね。先生方ともお付き合いが出来たし、手作り会報誌づくりを通じて多くのネットワーク作ることができました」と、水野さん。恵庭小学校のPTA会報誌「あしなみ」は努力が実って日本PTA会長賞を受賞。

「知らせると云う事が組織の人と人を結び、活性化させることにもつながるといっていましたね」と、話す。ボランティアで手話を35年間。趣味は

「なにしろ発信するのが好きで自分が知った情報は皆に知らせたいです」と、水野さん。

町内会報「すえひろ8」の編集も土、日曜日で仕上げてしまう。やり始めていると朝方になってしまうほどの入れ込みよう。

「真白だった一枚の紙が、悪戦苦闘の末に少しずつ埋まって行く醍醐味は編集をやった人でないとわからないと思います」と、にっこり。

もともと会報作りは子どもさんが生まれてから家庭で始まった。

「そうなんです。長男が生まれてから親戚や友達にB4サイズ2枚に手書きで送ったのが最初。初めは、りゅうた新聞、それがエスカレートして水野さん家新聞に発展していったの」と、笑う。

全道町内会活動研究大会

■報告1 テーマは「安全・安心をめざした地域の絆づくり」

平成24年度の「全道町内会活動研究大会」が5月29日、札幌市の「かでの2・7」を会場に開催されました。研究大会では、基調説明、講演のほか、町内会活動に長年、尽力された個人、団体の方々の表彰式も行なわれ、恵庭からは2人の町内会長と1つの町内会が受賞されましたので、あわせてご報告します。

報告 講演会 食の安心・安全を通して地域の絆を考える

東京農業大学名誉教授 小泉武夫氏

講師の小泉武夫さんは、現代の日本の食文化が抱える大きな2つの問題と、食をとおした取り組みにより、豊かな地域社会を創造できるとお話されました。

食糧需給率減少と平均寿命の短命化

1つ目の問題は、農家の力が衰弱していることです。高齢化により生産性が低下し、国内の食糧自給率が30%にまで落ちていきます。国民総体制で農業を支える取り組みが必要だし、農家の労働力を若く



市町村の親善大使やアドバイザーも務める小泉先生。テレビや著作などを通して、発酵食品の素晴らしさや優秀性のPR活動も幅広く展開している。

することが急務です。若者に農業を委ねるようにすると、まちにも活気が出てくるのではないのでしょうか。2つ目の問題は、日本人の寿命が下がり出したことです。日本人の体が、食生活の西洋化についていけないようになっていきます。日本人は長い間、



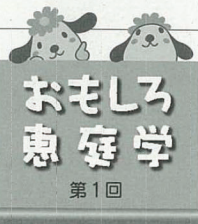
主に野菜を食べ、腸の運動を活発にし免疫力を高めてきました。食生活の西洋化による弊害が、平均寿命の短命化に現れていると考えられます。

地産地消で地方を豊かにする

こうした問題を解決するために、和食を食べる運動や「地産地消」を意識した生活を心がけてほしい。そういう生活を通して農業をもっと身近に感じ、若い力が農業にそそがれ、地方から豊かな地域社会が創造できるのではないのでしょうか。

報告 表彰式 長年の「労苦を讃えて」功労者表彰等受賞

研究大会では、「北海道町内会連合会表彰」の表彰式が行なわれました。恵庭市からは「功労者表彰」として京町町内会長の小川晃平さんと川治町内会長の榎本傑さんが受賞。「優良組織表彰」として桜町町内会が受賞されました。



教えて！
「駒場町」の町名の由来

このころに築かれたのかもしれませんが。正式に「駒場町」と決めたのは、町議会の議決を得た昭和36年のこと。当時の広報誌によると、「馬(駒)」が放牧され、牧場が道庁の真駒内牧場の支場だったことから「駒場町」としました。



○富設「漁村放牧場」

今から120年前、現在の恵庭公園から自衛隊南恵庭駐屯地の一帯は、牛や馬の放牧地でした。明治9年のことです。官設「漁村放牧場」という名前がつけられ、牛75頭、馬111頭が飼育され、その後、頭数は増えていきました。

明治10年、クラーク博士が帰国する際、ここに立ち寄ったという記録もあります。

今、恵庭は道内でもトップクラスの「酪農王国」と呼ばれています。その基礎が、